

応用化学専攻 授業科目関連表

科目群	1年		2年		
	前期	後期	前期	後期	
専攻指定	応用化学特別講義Ⅰ 応用化学特別講義Ⅱ 応用化学特別講義Ⅲ	応用化学特別講義Ⅳ 応用化学特論	(応用化学特別講義Ⅰ) (応用化学特別講義Ⅱ) (応用化学特別講義Ⅲ)	(応用化学特別講義Ⅳ) (応用化学特論)	
研究科共通	知的財産権出願特論 工学展望特論(社会人向け) 論文発表演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義Ⅰ 国際特別講義Ⅱ	ISO学特論 ベンチャービジネス特論 論文発表演習 企画力養成演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義Ⅰ 国際特別講義Ⅱ	(工学展望特論(社会人向け)) (論文発表演習) (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ) (国際特別講義Ⅰ) (国際特別講義Ⅱ)	(論文発表演習) (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ) (国際特別講義Ⅰ) (国際特別講義Ⅱ)	
国際教育科目	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学	(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)	(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)	
研究領域教育科目	研究領域D ライフサイエンス	生物機能化学特論※ 生物機能化学演習Ⅰ 応用生物学演習Ⅰ 生体材料化学特論※ 組織工学材料演習Ⅰ	生物機能化学特論※ 生物機能化学演習Ⅰ 生体材料化学演習Ⅰ 組織工学材料特論※	生物機能化学演習Ⅱ 応用生物学特論※ 組織工学材料演習Ⅱ	
	研究領域E ナノサイエンス・ナノテクノロジー	計算化学演習Ⅰ 材料物理化学演習Ⅰ 量子化学特論※	理論化学演習Ⅰ 計算化学特論※ 量子化学演習Ⅰ	理論化学特論※ 理論化学演習Ⅱ 材料物理化学演習Ⅱ 材料物理化学特論※ 量子化学演習Ⅱ	
	研究領域F 先進物質・先進材料	高分子設計化学演習Ⅰ 高重合化学特論※	高重合化学演習Ⅰ	高分子設計化学演習Ⅱ 応用有機反応化学特論※ 応用有機反応化学演習Ⅱ	高分子設計化学特論※ 高重合化学演習Ⅱ 応用有機合成化学演習Ⅱ 有機物性化学演習Ⅱ
		応用有機反応化学演習Ⅰ	応用有機合成化学特論※ 応用有機合成化学演習Ⅰ 有機物性化学演習Ⅰ	有機物性化学特論※	
		有機機能化学特論※ 有機機能化学演習Ⅰ 無機反応化学演習	応用固体化学特論※ 応用固体化学演習	有機機能化学演習Ⅱ 無機反応化学特論※ エネルギー変換化学演習	センサー化学演習 分析化学特論※ 応用分析化学演習
		応用環境化学演習 材料応用化学演習Ⅰ 素材合成化学演習	分離化学演習 材料応用化学特論※ 界面応用化学演習Ⅰ 機能性材料化学特論※ 機能性材料化学演習Ⅰ	材料応用化学演習Ⅱ 界面応用化学特論※ 複合材料化学演習	素材化学特論※ 機能性材料化学演習Ⅱ
創成工学教育科目	生産管理論特論Ⅰ ものづくり管理工学特論 実践企業学 環境創成実践特論 材料創成工学特論	生産管理論特論Ⅱ 造船工学特論 先輩から学ぶ先端科学技術			
特別研究	応用化学特別研究Ⅰ	応用化学特別研究Ⅱ	応用化学特別研究Ⅲ	応用化学特別研究Ⅳ	
※ 隔年開講科目	コアカリキュラム				

工学研究科応用化学専攻

科目区分/領域	到達目標	ディプロマ・ポリシー (DP) との関連			
		DP1	DP2	DP3	DP4
専門知識・技術	化学分野における高度な専門知識と技術を身につけ、研究を推進できる。	◎	○	○	
	化学の知識・技術を使い論理的に思考し、社会に応用できる。	◎	◎	◎	
	異なる専門分野との交流を通して、社会の諸問題を俯瞰することができる。	◎	○	○	○
教養	自ら実施した研究を正しくまとめ、成果として発表することができる。	◎			○
	社会が抱えている諸問題を正確に理解して解決法を提案できる。	○	◎	○	○
国際性	英語により自己の成果を発表し、議論できる。				◎

ディプロマ・ポリシー (DP) の説明

DP1：応用化学の研究者・技術者としての高度な専門知識・技術を修得し、科学技術や社会活動に関する諸問題に対して応用化学の観点から思考し解決することができる。

DP2：多面的思考能力を含む展開力と適応力を修得し、応用化学・産業の発展に迅速に対応することができる。

DP3：ものづくり能力、実践能力、技術者倫理を修得し、責任ある専門技術者として行動することができる。

DP4：国際コミュニケーション力を修得し、国際的な視野に立ち、科学技術の国際化に対応することができる。